

# 『県北・大谷石建築めぐり』

NPO法人 大谷石研究会  
有限会社 庭心設計事務所  
取締役 橋本 篤

名古屋からは約600km久々の遠征。春の行楽シーズンも一息の6月14日、気持ちの良い爽やかな青い空です。

この研究会に参加するのは今回が初めてで、面識や知識も少ない私は、なるべく目立たない様にバスの最後尾へ着席し出発。本企画の塩田さんから「今回は名古屋からは約600kmと予期せぬ紹介をいただき、『私は名古屋を中心としたエクステリア&ガーデンの設計・施工に日々奮闘している大谷石好きの...』などと不意打ちの挨拶にメロメロとなりながらも、暖かく歓迎してもらい大変嬉しく思いました。



二期倶楽部。イロハモミジヤカツラの木々の新緑が清々しく、ヤマボウシの満開の白い花が印象的でした。



石の美術館



カフェ・ド・グランボア向かいにある3mもの大谷石の塀



カフェ・ド・グランボア

車窓に県北の美しい景観を眺めながら順調に北進し、那須高原の緩やかな坂道を登りながら最初の目的地の二期倶楽部に到着。

二期倶楽部は那須の大自然と大谷石を用いた建築物が優雅に調和する高級リゾート施設です。ここでは、昔からの工法を基に漆喰を目的地に取り込んだ全面大谷石張りの外装や、瓦葺の大屋根を支える重厚感のある大谷石の太い柱があり、多少緊張感のある空気を水や緑といった自然素材が十分過ぎるほどの柔らかさを演出し、誠に見事な景観美を見せてくれました。将米、もし小金持ちになれたら、ぜひ再訪したい施設の一つです。ただ、残念なのが床に敷きつめられている大谷石の補修方法が痛々

お昼の古い蔵での食事は、まるでタイムスリップしたような感じでした。芦野の美味しい饅と多少のお酒で充電。一路、那須塩原市へ移動し、カフェ・ド・グランボアやその近隣を散策。このカフェは地元銀行本店として大正時代に建造されたもので、芦野石と大谷石が使用されています。窓のデザインが象徴的で、

この建物が存在することで、大正・昭和・現代が同時に楽しめる面白い町並みでした。向いの敷地にある高さ3mはあろうかと思う大谷石の塀も古く、このまま街並みが残ることを期待します。

途中、SHONZOカフェでくろぎ、最後の締めくくりに、塩谷町にある和気記念館です。この館は、栃木が生んだ『幽玄の画家』和気史郎の作品などを展示した石の蔵で、史郎の生家の石蔵を改修した美術館です。中に入ると蔵を見学するよりも、中に入り、彼の作品の魅力にどんどん吸い込まれていきます。「苔寺」や「面」の代表作をはじめ100点ほどの展示があり、不思議な時間を体験しました。

大切にしますパートナーシップ

印刷技術がいかに進歩しようとも技術表現の根幹は「心」であると考えます

印刷のご用命は

### 新光社印刷

株式会社  
〒321-0811 宇都宮市大通り2-4-1番地  
TEL 028-633-4718(代) FAX 028-637-3981

## 「旧大谷公会堂の移築と活用の推進運動」その後



NPO法人 大谷石研究会  
理事長 小野口順久

現状保存をして参りたいと考えております。また、現段階におきましては、**県道七号線の拡幅工事が未定であることなどから、移転を余儀なくされる状況にもないものと考えております。**なお、現位置における活用につきましては基本的には国登録有形文化財の本来の趣旨である「外観の公開」を原則とし、建物本体の維持管理などに努めて参ります。

【栃木県知事への要望運動】  
■平成18年10月20日  
「主要地方道宇都宮・今市線の歩道整備に関する要望書」  
■平成19年9月26日  
「学童の交通安全と観光の為の大谷橋架け替え要望」  
■平成20年3月28日  
栃木県知事に直接要望  
■平成20年7月22日  
「大谷橋の架け替え要望その2」

【以上の要望に対する宇都宮土木事務所の対応は】  
■平成20年2月21日  
午前7時30分現地集合、通勤通学の実情視察  
■平成20年6月9日  
午前7時40分現地集合、小中学生の迂回通学路の現地検証等  
■その後、当研究会が中心になって、県の担当部課を訪れ、要望の実現に向けて推進運動を継続中です。

大谷石と共に150年

採掘販売事業部・石材加工事業部・砕石加工事業部  
設計・施工

### 有限会社 高橋佑知商店

本社 宇都宮市大谷町3 5 0番地  
TEL 028(652)0005(代表)  
FAX 028(652)0192

## 多気の不動尊

多気山持宝院の本尊、不動明王は、言い伝えに寄れば、宇都宮氏の祖である藤原宗円が前九年の役(1051~62)の際に、源頼義にしたがって奥州に行く途中、下野国勝山で朝敵調伏の壇を構えて戦勝祈願をした折に奉持したものとされている。その後長治2年(1105)宇都宮氏2代目宗綱が多気山に移したとも、また建武2年(1335)9代目公綱の時に移したとも言われる。

ともあれ本尊の不動明王は、高さ1.73メートルの寄木造りで、胎内に「康成元年(1389)己巳十月廿六日」に修復した墨書銘があり、平安時代後期の作とされる。一般には多気のお不動さんとして、商売繁盛、火ぶせなどに靈驗あらたかとして信仰されている。

Merry Xmas

広告デザイン おまかせください

広告・パンフレット・チラシ・ノベルティ・イベント・イベント用ウェア

### 有限会社 栃木広告社

栃木県宇都宮市材木町4-2 松本ビル3階  
TEL 028-639-1115/FAX 028-639-1116  
E-mail tochigi-ad@crux.ocn.ne.jp